（別冊）８区のあゆみ

合併～区制移行

◆平成 13（2001）年 1 月，黒埼町と合併

◆平成 17（2005）年 3 月 21 日，12 市町村と合併

（新津市，白根市，豊栄市，小須戸町，横越町，亀田町，岩室村，西川町，味方村，潟東村，月潟村，中之口村）

◆同年 10 月 10 日，巻町と合併

⇒　15 市町村が 1 つになる平成の大合併が成就

（15 市町村が 1 つになったのは平成の合併で最大）

⇒　合併した旧市町村の役所・役場は，支所としてスタート

◆政令市樹立を目指し，行政区画審議会において行政区画の編成や区役所の位置，区の名称などを審議

⇒　行政区は，8 区に決定

区の名称は，市民を対象に行った意向調査の結果をふまえて決定

区　名	行政区内の支所・地区事務所等
北　区	豊栄支所，北地区事務所
東　区	中地区事務所，石山地区事務所
中央区	中央地区（市役所本庁舎），東地区事務所，南地区事務所
江南区	亀田支所，横越支所
秋葉区	新津支所，小須戸支所
南　区	白根支所，味方支所，月潟支所
西　区	坂井輪地区事務所，西地区事務所，黒埼支所
西蒲区	巻支所，岩室支所，西川支所，潟東支所，中之口支所

◆平成 19（2007）年 4 月 1 日，本州日本海側初の政令市へ移行，8 つの行政区が誕生

北　区

◆北区役所新庁舎の整備

・区民全体のシンボル性と防災拠点機能を有する区役所と公民館の複合施設
整備位置の決定（2016 年），建設工事（2019・2020 年）

⇒　区の一体感の醸成に寄与する交流スペースを備え，来庁される区民にやさしく次世代につながる庁舎で，地域のまちづくりの拠点となることが期待される。

◆コミュニティ活動の拠点の整備

・長浦コミュニティセンター（2008 年），木崎コミュニティセンター（2009 年），
岡方コミュニティセンター（2013 年）

⇒　地域の皆さまから親しまれ，気軽に利用されており，地域の連帯感を高め，人と人とのふれあいの場として，地域コミュニティ活動の拠点となっている。

◆豊栄児童センター　開館（2009 年）

・乳幼児から学齢時までの地域児童の福祉向上の拠点施設

⇒　自由に来館した児童に健全な遊びを提供し，健康増進や豊かな情操を育むといった児童健全育成だけではなく，子育て支援の拠点としての役割も果たしている。

◆北区文化会館　オープン（2010 年）

・区民が芸術文化に親しみ，地域文化の継承や新たな文化の創造・発信を担う拠点施設

・幅広い年齢に対応した演目やアウトリーチ事業などの鑑賞事業や次世代の育成

⇒　市民ミュージカルや市民オペラの上演，北区の少年少女合唱団，ジュニア吹奏楽団，フィルハーモニー管弦楽団の設立など，市民参加型の事業展開を図っている。

◆豊栄駅の橋上化

・自由通路，エスカレーター，エレベーターを有する駅舎の整備（2006 年）

⇒　豊栄駅南側と北側との移動が円滑となり，高齢者にも優しいバリアフリー化により利用者の便利性が飛躍的に向上した。

◆阿賀野川ふれあい公園の整備

・芝生遊戯広場，サッカー，ラグビー，野球場，テニスコート等の整備（2011 年）

⇒　阿賀野川と調和した景観を選出し，良好な河川環境の保全に配慮した安らぎの場として，家族連れやスポーツ団体など休日を中心に多くの市民が利用している。

◆海辺の森整備（2014～2018 年）

・松くい虫や外来樹種の繁茂によって被害を受けた海岸保安林について，国の森林空間総合整備事業を活用し，クロマツや広葉樹を植栽

⇒　クロマツ 4 万 8 千本，広葉樹 5 千本を植栽するとともに，地域のボランティア団体と協働で定期的な保全活動を続け，荒廃した海辺の森 11 ヘクタールの再生に取り組んでいる。

◆農業の活性化

・北区特産の「トマト」の消費拡大・ＰＲを目的とした「とまとキャンペーン」の実施

・北区産さつまいも「しるきーも」の特産化

・キテ・ミテ・キタクでの農産品の販売・ＰＲ

⇒　北区は，県下一の出荷量を誇るトマトの一大産地となったほか，新品種のさつまいも「シルクスイート」を「しるきーも」と命名・特産化し，新潟医療福祉大学や区内の菓子店等と連携して商品開発や販売をしている。

◆新潟医療福祉大学との連携

・新潟医療福祉大学との包括連携協定を締結（2010 年）

⇒　保健・医療・福祉をはじめ，まちづくりや教育，人材育成など幅広い分野において，大学が保有する知的財産と学生の若い力，北区の地域資源との交流・連携により，魅力ある地域づくりを展開している。

◆自然と共生するまちづくり

・水の駅「ビュー福島潟」を中心とした福島潟の新たな魅力発信

・福島潟が日本一の越冬地となっているオオヒシクイを区の鳥に制定（2015 年）

⇒　秋分の日の風物詩となった福島潟自然文化祭の「雁迎灯」，オオヒシクイのゆるキャラ「クイクイ」の誕生など，潟の魅力発信と交流人口の拡大につながっている。

東　区

◆東区役所移転・東区プラザ　開設（2011 年）

・区の中央に位置する旧商業施設に区役所を移転。ホールを備える東区プラザ，子育てフリースペース，商業テナントなどを併設

⇒　区役所機能に加えて，区民の多様な活動の場としてほぼ年中無休で利用され，新たなにぎわいを創出している。

◆山の下まちづくりセンター　開館（2012 年）

・旧区役所建物に，地域の活動拠点となる市内初の「まちづくりセンター」を開設。公民館・図書館行政サービスコーナーと地域が連携する複合施設として再スタート

⇒　各施設とも多くの地域住民の利用がある中で，交流促進の場と地域活動の拠点が整備されたことで，地域の一層の活性化に大きな効果が表れている。

◆寺山公園・子育て交流施設「い～てらす」オープン（2018 年）

・緑の中の健康づくり，多世代交流の場として寺山公園をオープン。季節や天候に関わりなく遊べる子育て交流施設「い～てらす」を整備

⇒　第 34 回都市公園等コンクールにて，最高位の「国土交通大臣賞」を受賞した。

⇒　「みんなおいでよ！寺山フェスタ」など幅広い世代が楽しめるイベントを実施。オープンから半年で利用者が 10 万人を突破した。

◆山の下みなとランド　オープン（2007 年）

・日本宝くじ協会の寄付を受け，市内初となる大型複合遊具を備えた公園として整備

・「湊町にいがた」をイメージした帆船型遊具をはじめ約 70 種類の遊具を設置

⇒　親子連れなどを中心に，年間 3 万人以上が利用。山の下みなとタワーとともに，海を体感できるエリアとして親しまれている。

◆新潟東警察署の新設（2017 年）

・8 区で唯一の警察署空白区だったが，区自治協議会からの設置要望などを受けて，区役所向かいに新しく新潟東警察署が開設される。

⇒　防犯・交通安全の地域組織が再編され，警察・地域・区役所が一体で安心安全なまちづくりを推進する体制が整った。

◆支え合い助け合うまちづくり（2014 年）

・「地域の茶の間」発祥の地である東区で，市内初の地域包括ケア推進モデルハウス「実家の茶の間・紫竹」を開設

⇒　その後全市に順次モデルハウスが整備され，地域の特性を活かした地域の茶の間が定着している。

◆新潟県立大学との連携によるまちづくり

・区自治協議会が同大学生とワークショップを開催し，まちづくりへの提言や意見交換を実施しているほか，区農産物を使った料理アイデアコンテスト，クリスマスコンサート，中学生の勉強会などに学生が積極的に参画

⇒　大学の専門的知見活用のほか，若い世代からのアイデアを自治協議会提案事業に反映させるなど，区の課題解決に向けて連携して事業に取り組んでいる。

◆地域の魅力発信と誇りの醸成

・区民・商店街などと協働で，東区にあった説が有力な「渟足柵」をテーマとしたプロジェクトをスタート（2012 年～）。牡丹山諏訪神社古墳で須恵器の一部が県内初出土（2014 年）したことから，「東区歴史浪漫プロジェクト」に拡充して展開中

⇒　フォーラムや商店街スタンプラリー，歴史まち歩きなどにより，東区の歴史や隠れた魅力を再認識することで地元への愛着，誇りづくりに寄与している。

・通船川沿いの工場夜景を素材として，木戸地域コミュニティ協議会と協働で工場夜景バスツアーを実施（2015 年）。翌年からこれを区で引継いでいるほか，幅広い世代に区内産業をアピールする催しを実施

⇒　バスツアーや工場見学，ものづくり体験などにより，産業のまち東区を市内外に広く発信することで，交流人口の拡大や区の活性化が図られている。

・第１回水と土の芸術祭を契機として，区民を中心とした有志により東区市民劇団「座・未来」が結成され，様々な時代の東区をモチーフとした音楽劇を定期的に上演（2009 年～）

⇒　東区プラザホールを会場とし，芸術文化を身近に感じる機会を創出している。

中央区

◆新潟市中央図書館「ほんぽーと」オープン（2007 年）

・政令指定都市にふさわしい規模と機能を有した本市の図書館サービスの拠点施設

⇒　全館のネットワーク化により，読書環境の整備が進み，市民の利便性が向上した。

◆いくとぴあ食花　グランドオープン（2014 年）

・本市が誇る食と花をメインテーマに子どもから大人まで様々な体験と交流ができる複合施設（食育・花育センター，こども創造センター，動物ふれあいセンター，食と花の交流センター）

⇒　農村と都市が共存する「田園型政令市にいがた」の推進拠点であり，食と花の魅力を発信するショールームとして，市内外から多くの観光客が訪れている。また，本市に数少ない大型の屋内滞在型施設として，子育て世代をはじめ学校や福祉施設からも頻繁に利用されている。2017 年度は 4 施設合計で約 145 万人が来場

◆新潟市アサヒアレックス　アイスアリーナ　オープン（2014 年）

・国際規格のメインリンクを備えた本州日本海側唯一の通年型アイスリンク

⇒　市民の健康増進に向けた氷上競技の普及・振興とともに，スポーツを軸とした交流人口の拡大により地域の活性化を図る拠点施設。個人，団体，学校などの利用をはじめ，全国レベルの大会の開催のほか，市及び新潟市文化・スポーツコミッション，関係団体との誘致活動により，フィギュアスケート・ロシア選手の平昌 2018 冬季オリンピック直前・期間中合宿の練習会場となった（延べ利用者数　2018 年 9 月末現在 62 万 6 千人）。

◆中央区役所の移転（2017 年）

・市役所庁舎における耐震性の確保とまちなか活性化の観点から NEXT21 へ移転

⇒　「質の高い行政サービスの提供」として，主な手続きを 1 つの窓口で完了できる，総合窓口を市内で初めて導入，あわせてプライバシーに配慮した十分な窓口スペースを確保した。

⇒　「まちなかの賑わいを創出する」として，まちなかほっとショップに飲食コーナーを設けた憩いの空間を移転オープン，さらに運転免許センターを開設し機能の充実を図った。

◆柳都中学校区の学校統合

・2014 年舟栄中学校・二葉中学校が統合し柳都中学校（旧舟栄中学校）が開校

・2015 年入舟小学校・栄小学校・湊小学校・豊照小学校が統合し，日和山小学校（旧栄小学校）が開校

⇒　旧二葉中学校は，新潟市芸術創造村・国際青少年センター「ゆいぽーと」に整備
旧入舟小学校は，新北部総合コミュニティセンターとして 2019 年夏に供用開始予定
旧湊小学校は，障がい者福祉施設・保育園（2017 年開設），高齢者福祉施設（2019 年事業開始予定），市営住宅（2019 年度供用開始予定），二葉コミュニティハウス分館（2020 年度供用開始予定）
旧豊照小学校体育館は，暫定利用として健康寿命延伸に繋がるモデル事業を実施中

◆みなとまち文化を活かしたまちなかの活性化

・旧齋藤氏別邸（2012 年一般公開）
2009 年，市民運動の高まりを受け公有化。2015 年，庭園が市内初の国名勝指定

・「えんでこ　まち歩き」
歴史・文化への関心を深めるために，区内の見所を巡る「まち歩き」を実施

・「料亭の味と芸妓の舞」
全国屈指の花街である新潟の老舗料亭の味と古町芸妓の華やかな舞の鑑賞を体験

⇒　「えんでこ」は区を代表する事業となり，毎年多くの方からの参加があり，シビックプライドの涵養につなげた。区内の文化施設や料亭に足を運んでいただくことで，区内に継承されている地域文化への理解や認識を深める機会を提供できた。

◆新潟市・沼垂町合併 100 周年記念事業

・2014 年は新潟市と沼垂町が合併して 100 周年という節目であり，萬代橋上にて記念式典を実施

⇒　当日の式典では約 48,000 人の集客があり，合併 100 周年を区民や市民に伝えたほか，企画準備段階から多くの地域団体や企業等と協働の取り組みとして開催できた。

◆早川堀通りの整備（2014 年）

・沿線の自治会長や住民，下町を愛する有志と勉強会をしながら，早川堀通りの整備を実施
整備延長Ｌ＝650m，整備幅員W＝29m

⇒　4 車線あった車道を 2 車線に狭め，電線類地中化をした広い歩道空間と水辺を整備した。早川堀通りつつじ祭り等のイベントに利用されている。

江南区

◆ＪＲ亀田駅橋上駅舎・自由通路の整備（2005 年）
・駅の東西を行き来できる自由通路及び橋上駅舎を建設
⇒　先進のバリアフリー設備を駅舎内及び駅周辺に設置し，駅利用者の利便性と安全性が向上。あわせて，駅前広場や駐車場をはじめとする駅周辺整備を行うことにより駅周辺の環境が大きく向上。県内で 3 番目に乗車人数が多い駅としての機能を高めている。

◆亀田駅前地域交流センター　開館（2007 年）
・駅直結の交流センター。行政サービスコーナーを併設
⇒　交通結節点であるＪＲ亀田駅に直結する利便性を活かし，幅広い利用者に活用されている。また，夜 7 時まで開設している行政サービスコーナーを併設するほか，無料のレンタサイクルを設置，環境と健康にやさしい区内移動の拠点となっている。
（2017 年度　センター14,127 人，レンタサイクル 3,357 台，サービスコーナー3,646 通）

◆江南区文化会館　オープン（2012 年）
・「ホール」「図書館」「公民館」「郷土資料館」の複合施設。2015 年に同一敷地内に開設された屋内多目的運動場と武道場と合わせ，文化・スポーツの地域拠点
⇒　区の文化拠点として演劇やコンサート等を実施するなど文化プログラムの充実を図った。また，複合施設としての強みを活かすとともに，同一敷地内に隣接する体育施設との連携イベントを実施することで，文化・スポーツの魅力を区内外に発信している（会館利用者　2017 年度　269,427 人）。

◆江南区福祉センター きらとぴあ　開館（2015 年）
・「地域子育て支援センター」「子どもたちの居場所」「社会福祉協議会」などからなる福祉の拠点施設
⇒　開館から約 21 万人の方々が利用され，障がいがある人もない人も，子どもから大人まで誰もが気軽に利用できる多世代交流施設として定着している。

◆亀田東児童館　開館（2008 年）
・子どもたちが安心して遊べる「子どもの居場所」として開設
⇒　地域・学校などとの連携による，地域児童の健全育成と子育て支援の拠点として定着し，開館から約 24 万人が利用されている。

◆亀田地区コミュニティセンター　開館（2015 年）
・サークル活動など地域活動の拠点施設
⇒　地域コミュニティ活動の中心的施設。コミ協が運営を受託することで，地域に根差した施設運営が展開され，多くの団体により利用されているほか，コミセン自主事業

として地域文化祭やコミセンコンサートなど，1 年を通じて多彩な事業を行うことで，誰もが気軽に集える場として区民に親しまれている（2017 年度　利用者数 44,980 人）。

◆まちなかの賑わい創出

・地域の情報発信拠点として「まちの駅亀田の郷」を設置

・320 年以上の歴史を持つ「亀田三・九の市」と連携したイベントの開催

・地元各業界やＮＰＯとの連携により，地域資源の活用を進める「魅力ぎっしり江南区の創造と発信事業を実施（2014 年～）

⇒　2013 年「江南区まちなか商業活性化計画」を策定，地域の魅力を活用した農商工連携事業，商店街と地域の団体との連携事業に取り組み，区内の商業活性化を図っている。具体的には，商店街の飲食店等で藤五郎梅を使った新たなメニュー提供につなげたほか，田枠を灯篭にしたわく灯篭は商店街などに設置され，新たな地域の宝として定着している。また，亀田三・九の市と商店街で連携した取り組みを行うため推進協議会を立ち上げるなど，各種事業を通じて地域の魅力を発信している。

◆地域の魅力発信と誇りの醸成

・中央卸売市場と連携した，区内全域の産品を一堂に集めた区内特産品のＰＲイベント「江南区旬花旬菜いきいきフェスタ」の開催

・水と土の芸術祭の開催を契機とし，各地域で大切に受け継がれてきた伝統・文化など区の魅力を発信

⇒　「江南区旬果旬菜いきいきフェスタ」は，同時開催の市場まつりとの相乗効果により，18,000 人を集客する一大イベントとして定着。江南区内の農産物・特産品の販売・ＰＲはもとより，商工業者への見本市的役割を果すなど，江南区産品の魅力発信消費拡大に寄与。また，神楽や祭りなどの伝統・文化の継承や発信などを目的とし，アーカイブＤＶＤを作成したほか，2017 年度には，区制移行 10 周年記念式典を実施し区内の一体感醸成と魅力の発信を行うなど，シビックプライド醸成につながる魅力発信を行っている。

◆まちづくりの推進

・江南区まちづくり協議会の設置（2017 年）

⇒　区の豊かな田園・自然環境や，充実した商工業，良質な住宅地，交通網などの強みを最大限活用した方策を検討するため，区の主要団体で構成する協議会を設置。工業用地・宅地不足の解消に向け協議会として調査・検討し，市に対して提案・要望することで，新たな工業用地確保に向けた動きにつなげたほか，交通環境の向上に向け，（仮称）江南駅の需要調査を行い，その後締結されたＪＲと市との連携協定に資する活動などを展開している。

秋葉区

◆新津地域交流センター（新津本町地域コミュニティセンター）開館（2010 年）
新関コミュニティセンター　開館（2010 年）
小須戸まちづくりセンター　開館（2015 年）
・地域主体によるまちづくりを進めるため，地域交流や地域活動の拠点となる施設
⇒　防災・防犯，交通安全，健康づくり，見守りなどの地域課題に対し，地域住民が主体となって取り組む環境づくり

◆秋葉区文化会館　オープン（2013 年）
・市民の芸術・文化活動を通して，地域文化の創造と地域活性化を推進する拠点施設
⇒　区民の多様な文化活動の振興。地域と連携し，区の特色を活かした文化の創造
⇒　0 歳から楽しめるワンコインコンサート，秋葉区高校演劇発表会
あきはの民話とわらべうたの開催。市民合唱団フォリエの設立
⇒　入館者数　2013 年度（9～3 月）45,430 人　　2017 年度　114,314 人

◆秋葉区総合体育館　オープン（2013 年）
・区民の健康で豊かなスポーツ活動を推進する中心的施設
⇒　区民の健康づくり，スポーツ活動の推進
⇒　利用者数　2013 年度（10～3 月）42,765 人　　2017 年度　146,491 人

◆新潟薬科大学との連携（2014 年～）
・産学官・地域等と連携し，まちなか活性化や健康づくり，人材育成に向けた取り組み
⇒　新潟薬科大学の知的資産と学生の感性とパワーを活かしたまちなかの賑わいと交流，健康づくり，里山の魅力発信
⇒　学生ランチ MAP 発行
⇒　まちなか（商店街）を活かした学生実習の場の提供
⇒　女性の視点に立った新たな人材発掘とまちづくりの推進
⇒　健康自立セミナーの開催
⇒　Akiha 健康レストランプロジェクトや Akiha もち麦プロジェクトの実施
⇒　里山おとな・こども手帳発行

◆AKIHA　sumu　プロジェクト（2016 年～）

・秋葉区の魅力や暮らし方をイメージとして統一的に区内外に発信

・地域アイデンティの醸成と移住・定住の促進

⇒　区の魅力（里山，鉄道，花等）の発信と，区民の地域に対する愛着や誇りの醸成
区民主体による特色ある事業（あきはなび，秋の音，秋葉小夏等）の実施

⇒　地域や学校と連携し，ふるさとを学ぶ子どもの学習支援。Akiha 教育懇談会開催

⇒　地域コミ協との協働による地域の歴史や文化を学ぶコミぶら散歩の実施

⇒　県外在住者を対象にした移住・体験ツアーの開催

⇒　小須戸地区 HAPPY ターンモデル指定，金津・朝日地区 移住推進モデル地区に指定

◆秋葉丘陵（里山）

・里山ビジターセンター　開館（2015 年）

・Akiha マウンテンプレーパーク（2016 年～），屋外型子育て支援センター

⇒　緑豊かな里山の魅力発信と利活用の推進。里山を活かした子育て環境の支援

⇒　里山ビジターセンター来館者数　2017 年度　36,704 人

⇒　Akiha マウンテンプレーパーク参加者数　2017 年度　1,843 人

◆健康で安心していきいきと暮らせるまちづくり

・地域包括ケア推進モデルハウス「まちの茶の間だんだん嶋岡」オープン（2016 年）

・ロコモ予防を推進する「PPK48」デビュー（2016 年）

・新潟薬科大学や地域との連携による，健康づくりの推進（2016 年～）

⇒　地域や関係機関等と連携し，支え合いの仕組みづくりや健康づくりの推進

⇒　ロコモ予防取組団体数　2017 年　47 団体

⇒　新潟薬科大学健康自立セミナー参加者数　2017 年　915 名

◆まちなかの賑わいと交流

・「にいつハロウィン仮装まつり」の開催（2007 年～）

・鉄道のまちをＰＲする「にいつ鉄道商店街」。新津鉄道資料館サテライトオープン

・0 番線待合室「来て基地」オープン（2015 年）

・小須戸町屋を活かした賑わいと交流

⇒　地域や商店街等と連携し，地域資源を活かしたまちなかの魅力発信と交流人口の拡大

南　区

◆白根健康福祉センター　オープン（2013 年）

・区民の健康の保持及び福祉の増進のため，健康相談，健康教育，栄養指導，健康診査等の中心施設

⇒　健康づくり，生きがいづくり，市民交流，ボランティア活動などの拠点施設

施設全体の年間利用者　約 40,000 人

◆児童福祉施設の整備

・白根児童センター　オープン（2007 年）　年間利用者　約 54,000 人

・味方児童館　オープン（2009 年）　年間利用者　約 14,000 人

・白根北児童館　オープン（2012 年）　年間利用者　約 17,000 人

・白根南児童館　オープン（2015 年）　年間利用者　約 15,000 人

◆老人福祉センターいこいの家 楽友荘　オープン（2012 年）　年間利用者　約 29,000 人

◆体育施設の整備

・白根野球場　オープン（2013 年）　年間利用者　約 14,000 人

・白根総合公園屋内プール　オープン（2014 年）　年間利用者　約 40,000 人

◆農業活性化研究センター　オープン（2013 年）

・県と連携して市内の全農業者の農業課題に取り組む施設

⇒　農家への農産物の加工技術指導，6 次産業化や農商工連携を促進

◆アグリパーク　オープン（2014 年）

・農産物の収穫・栽培などの体験ができる日本初の公立教育ファーム

⇒　年間利用者　約 170,000 人

◆米や果樹など豊富な農産物を活かしたまちづくり

・2016 年「農産物をつかったビジネスプランコンテスト in 南区」を実施

・2017 年「南区お土産アイデアコンテスト」を実施

⇒　南区産農産物を使った新ビジネスや新商品の発掘・開発に取り組んだ。

2016 年　最優秀賞を受賞した大学生グループが起業に向けて活動中

2016 年　応募数　30 件，2017 年　応募数　78 件

◆南区ＰＲ大使

・南区の魅力を広く発信するため，ＮＧＴ48 メンバーの 2 人が就任（2016 年）

⇒　区内の文化施設・農産物等のＰＲ活動を通じて，年間 2 千万円以上のパブリシティ効果を生み出し，交流人口拡大とシビックプライド醸成等の効果につなげている。

◆にいがた南区創生会議

・10～20 年後の「南区の明るい未来」の実現を目的に，区内の医療・福祉，産業・経済，文化などの各分野で活動している民間団体を構成組織として設立（2017 年 4 月）

⇒　新潟市移住モデル地区（地域活性化モデル）第 1 号に指定

◆旧白根配水塔

・白根大火（1931 年）を契機に建設された上水道施設の配水塔。国有形文化財登録（2018 年 5 月）

⇒　白根大火からの復興を象徴する地域のランドマークとして市民に親しまれており，地元コミュニティ協議会などでは後世に受け継ぐための取り組みが行われている。

◆白根大凧合戦

・ナント市やハバロフスク市に交流事業団を派遣するなど，300 年の伝統を誇る世界最大級の大凧合戦を広く国内外にＰＲした。新潟市民文化遺産指定（2014 年），新潟県無形民俗文化財指定（2015 年）

⇒　来場者は毎年約 200,000 人を数え，本市の一大イベントとして国内外に発信

◆角兵衛獅子

・地域の子どもたちがさまざまな曲芸を演じる芸能。新潟市無形民俗文化財指定（2013 年）

⇒　毎年 6 月の月潟まつり，9 月の大道芸フェスティバルで披露され，全国各地から約 6,000 人余りの観光客が訪れている。

西　区

◆西区役所新庁舎　オープン（2014 年）

・本館，分館などに分散していた全ての課を移転・集約し整備

⇒　来庁者の動線に配慮したコンパクトなレイアウトを採用し，利便性を向上させるとともに，区民との様々な打ち合わせや相談を行えるラウンジ等を整備し，区民協働の拠点となっている。

◆地域の活動拠点の整備

・坂井輪中学校区まちづくりセンター　オープン（2014 年）

・内野まちづくりセンター　オープン（2016 年）

・大野校区まちづくりセンター　オープン（2016 年）　ほか 8 施設

⇒　地域課題解決のための活動の活性化につながった。

◆道路環境の整備

・新潟交通電鉄跡地に自転車歩行者道を整備（2007 年～　事業中）

・国道 402 号内野新川大橋　開通（2010 年）

・内野駅前広場　オープン（2017 年）

・西川遊歩道を整備

⇒　道路網整備の促進と利便性の向上が図られた。

◆スポーツ・文化振興の場，市民の憩いの場の整備

・みどりと森の運動公園　オープン（2011 年）

⇒　体育施設と公園施設の隣接整備により幅広い年代からの利用が図られた。

・きらら西公園　オープン（2017 年）

⇒　花や緑とふれあいながらスポーツや遊具で楽しめるレクリエーションの場を提供

◆農産物のブランド化

・新潟砂丘さつまいも「いもジェンヌ」の特産品化に向けた取組み

⇒　生産者，ＪＡ新潟みらい，商工会，区等による農商工連携協議会発足（2010 年）
2011 年，新潟大学とも連携を開始し「いもジェンヌ」と名付け，ブランド化を推進

・くろさき茶豆が国の地理的表示（GI）保護制度に登録（2017 年）

⇒　くろさき茶豆の一層のＰＲを行うため，茶豆の収穫時期に併せ，黒埼地区で「くろさき茶豆夏の陣」をＪＡ越後中央，黒埼商工会，区等の連携により開催

◆情報通信技術（ＩＣＴ）の活用

・ベジタリア(株)やウォーターセル(株)と連携した道路冠水防災プロジェクトの実証実験（2017 年）

⇒　情報収集の時間短縮と業務の効率化が期待される。

・ベジタリア(株)が現地農業法人ベジタリアファーム新潟(株)を設立（2018 年）

⇒　ＩＣＴを活用したモデル農場として省力化や生産コスト低減，高品質な農産物づくりを実証中

・凸版印刷(株)と連携した自治体向け音声翻訳システムの実証実験（2018 年）

⇒　外国人の方に対する窓口サービスの向上や手続きにおける時間短縮などの事務の効率化が期待される。

◆地元大学との連携

・新潟大学や地域住民との協働でまちを舞台に行う「西区アートプロジェクト」を開催

⇒　芸術イベント「西区アートキャラバン」などを通して，区民の芸術文化意識の向上と地域活性化につながっている。

・新潟大学・新潟国際情報大学の自治協議会への参画

⇒　地域の特色あるまちづくりを進めるため，若い視点で多様な意見をいただき，また，地域と大学とのパイプ役として活躍するなど，区役所と連携し地域課題の解決に貢献している。

◆魅力の発信

・ラムサール条約湿地「佐潟」をはじめとする美しい景観の継承や見どころの発掘

⇒　佐潟の豊かな自然環境と魅力を発信するため，「佐潟 20 ラムサールフェス」など様々なイベントを通じ，地域や関係機関との連携を図りながら普及啓発に取り組んだ。

・自然や魅力を活かしたまち歩きやボランティアガイドの養成

⇒　2018 年，国登録有形文化財となった中原邸など，魅力ある史跡や自然景観を活用したまち歩き観光ツアーの実施，ボランティア主体による「赤塚ガイドブック」の作成

・西区の魅力を発信する西区かがやき大使に，越乃リュウさんが就任（2016 年）

⇒　市外，県外に向けた西区の魅力の発信と区内イベントへの参加による区民の一体感の醸成

西蒲区

◆岩室観光施設「いわむろや」オープン（2010 年）

・区の観光，歴史や文化の情報発信施設

⇒　観光まちあるきガイドなど地域住民との協働のほか，わらアート展示やいわむロック FESTIVAL 魅力的なイベントの開催拠点となり，交流人口の拡大につながった。

◆巻潟東インターチェンジ周辺整備（2011 年）

・アクセス道路の整備，パークアンドライド駐車場の整備

⇒　交通体系拠点として，都心などへのアクセス強化につながるとともに，路上駐車の一掃に成功し，二酸化炭素排出量削減に寄与した。

◆中之口農業体験公園　オープン（2012 年）

・自然と触れ合い，魅力ある農業を振興する拠点施設

⇒　田植えや野菜づくり体験に加え，農産物の販売や料理教室の開催のほか，地域の魅力を活かしたイベントなども開催され，交流人口の拡大につながった。

◆地域コミュニティの拠点整備

・協働の要であるコミュニティ協議会の拠点として「コミュニティセンター」を新設・整備

⇒　2013 年「松野尾地域コミュニティセンター」，2015 年「角田地区コミュニティセンター」をそれぞれ新設。既存施設を改修し 2015 年「西川地域コミュニティセンター」，「中之口地区コミュニティセンター」をそれぞれ整備

◆岩室温泉開湯 300 年記念事業・新源泉掘削（2014 年）

・岩室温泉が開湯 300 年を迎えるにあたり各種イベントなどを実施

源泉施設の老朽化に対応するため新源泉を整備

⇒　開湯 300 年祭などの各種イベントやおもてなし研修などで岩室温泉をＰＲし，交流人口の拡大につなげるとともに，新たに源泉を掘削しホテル・旅館等 13 施設に供給を行った。

◆潟東サルビアサッカー場　オープン（2015 年）

・市内のサッカー競技拡大を推進する拠点施設

⇒　アルビレックス新潟に所属しているプロサッカー選手を招いた交流会の開催や，各種ユース世代の公式戦会場としても使用されている。

◆潟東地域実行計画の策定（2016 年）

・財産経営推進計画に基づき 3 小学校の統合を契機として，公共施設の将来のあり方を示す「潟東地域実行計画」を本市第 1 号として策定した。

⇒　2017 年からの 5 年を目途に再編を推進する。

◆中之口こども園の開園（2018 年）

・並設されている「なかのくち保育園」と「中之口幼稚園」を一体化として本市初の公立「中之口こども園」を開園

⇒　幼稚園の保護者の要望にも応えることで働く女性への支援にもつながった。

◆わらアートまつり（2008 年～）

・稲作の副産物である「わら」を活用したアート作品を武蔵野美術大学と連携し，制作・展示

⇒　市民協働での作品制作や地域住民主体のステージイベントの実施のほか，ニコニコ町会議で動画配信，テレビの全国放送や大手 Web メディアで配信されるなど，市を代表するイベントとなり，毎年多くの観光客が訪れている。

◆越前浜自治会の移住促進

・移住アーティストによる「浜メグリ」イベントの開催や移住希望者と空き家のマッチング，自治会共有地の分譲などを移住促進につながる取組みを積極的に実施

⇒　新潟市移住モデル地区（HAPPY ターンモデル）第 1 号に指定

◆商店街の活性化

・巻の郷土玩具である鯛車をモチーフとした「鯛の宵」のほか，区の特色である「酒」や地域資源である「越王おけさ柿」を活用したイベントなどを開催

⇒　地域の魅力をモチーフにした様々なイベントが行われることで商店街の賑わい創出につながった。